

あたごはま

今月のめあて

- やさしい言葉づかいをしよう。
- ・呼び捨てはしない。
- ・感謝の気持ちを表そう。

海と緑に囲まれた自然体験

～自然教室ダイジェスト～

今を生きる子どもにとって、自然と触れあいながら学ぶことは極めて貴重な体験です。本年度、5年生は、「海の中道青少年海の家」で2泊3日のプログラムを体験。大きく成長して帰ってきました。概要は以下の通りです。

【1日目】

AM：学校出発～バスに乗り「海の中道青少年海の家」に到着後「入所式」並びに「オリエンテーション」（昼食）
PM：マリナーに移動し「カッター教室」に参加



カッターに乗り込み操船法を学ぶ子どもたち

海の家に戻り「夕べの集い」に参加し、夕食・入浴
曇天のため天体観測できませんでしたが、コンピューター映像に合わせた興味深い「星の話」を聞きました。

【2日目】

AM：「朝の集い」に続き朝食。その後、野外調理を体験。
*メニューはおいしいおいしい豚汁
PM：クイズに答えながら公園内を散策（パークテリング）
「夕べの集い」に参加し、夕食
夜は「キャンプファイアー」に参加。その後入浴

【3日目】

AM：「朝の集い」に続き朝食。退所式を経て「マリンワールド」へ。「いるかとあしかのショー」を含む水族館見学。
PM：自然の家まで戻りバスで学校に……！

長崎ーハウステンボスへの修学旅行

～平和を願いグループで協力した2日間～

27日（水）、6年生の児童は修学旅行に出発。平和の祈りを捧げるとともに、グループで協力しながらそれぞれの興味・関心を追求しました。今回は、3枚の写真で概要を紹介します。

平和集会～昼食、そしてフィールドワークへ



学校出発から約3時間。長崎に到着。でも外は雨でした。大雨洪水注意報が発表されていたため、大事をとってフィールドワークの集合場所を出島から平和公園に変更して実施しました。

1日目の学び：原爆遺構を巡るフィールドワーク

雨の中、子どもたちはフィールドワークに出発。原爆資料館はもちろん、山里小学校や如己堂、浦上天主堂や山王神社等を巡りました。急な変更に対応できたのはさすがです。出島にはバスで移動しました。



2日目の学び：ハウステンボス・グループ行動



子どもにとって一番の楽しみだったことでしょう。どのグループも計画に沿った活動ができたようです。

園内のアトラクションも満喫。家族旅行とはひと味違ったものとなったことでしょう。

10月の主な行事（確定）

11月の主な行事（変更あり）

2月	PTA 役員会 10:30	22日	衆議院議員総選挙投票日	2月	全校朝会 フリー参観
4月	2年歯科保健指導 クラブ活動	23日	PTA 運営委員会 10:30	5日	(地域行事) 校区文化祭
6月	音楽鑑賞会	24日	森林体験 (5年3組と1組のA)	6月	教育実習開始(17日まで)
8日	(地域行事) 校区運動会	26日	学習遠足 (1・2年)	11日	音楽会(1・3・5年)
11日	NZ学校交流(歓迎集会・交流5年)	27日	森林体験 (5年2組と1組のB)		学習参観(2・4・6年)
12日	NZ学校交流(1・2・3・4・6年)	29日	(地域行事) ハロウィンパレード	15日	就学時健康診断(新1年)
18日	火災想定避難訓練			16日	クラブ活動
	姪浜中合唱コンクール(6年参加)			29日	学習定着度調査(5年)
21日	第2回学校サポーター会議 11:00			30日	TV朝会 みるく教室(3年)
	土曜参観 (3校時)				
	愛宕浜フェスタ (午後)				



*5年生の森林体験は、北九州見学に代わって本年度新しく取り入れる行事です。
*すでにお知らせのとおり、本年度より学習発表会に代えて1・3・5年が音楽会を開催します。

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果（6年生）をお知らせします

1 結果概要

調査対象となった教科は、国語科と算数科2教科です。またそれぞれ、A問題（主に知識）とB問題（主に活用）に分けられています。全国平均と比較した本校の状況は次表の通りです。

国語		算数	
A問題（主に知識）	B問題（主に活用）	A問題（主に知識）	B問題（主に活用）
全国標準と比べ上回っている	全国標準と比べ上回っている	全国標準と比べ上回っている	全国標準と比べやや上回っている

2 正答状況からみた今後の課題

(1) 国語科……正答率の高さに惑わされることなく、学習の定着状況が十分でない児童に目を向けることが必要。

A問題、B問題とも、全ての設問で全国平均を上回りました。このように、児童個別の正答状況を見ると、A・B両問題とも正答率が低い児童が散見されます。

(2) 算数科……国語科以上に学習の定着状況が十分でない児童に目を向けることが必要。

A問題は15問中13問、B問題では11問中10問で全国平均を上回りました。国語科と同様、好成績をおさめていますが、A・B両問題とも正答率が低い児童が散見されることに加え、国語科よりもその幅が大きい傾向が見られます。

3 学力学習状況調査結果を受けて

課題に示した通り、国語科、算数科ともに、正答率の高さに惑わされることなく、個々の児童の課題をしっかりとらえ、苦手とする領域や分野の指導の徹底をはかることが重要だと考えます。国語科も算数科もA問題に比べB問題に課題がありそうです。

国語科においては、文章と資料を関連づけて読んだり根拠を探し出したりする学習、指示語や接続語、文末表現に注意するとともに、文と文つながりや構成を理解することができるように、スモールステップで学習を展開することや小グループで話し合ったり考えを書いたりする学習活動をより大切にしていきたいと考えます。

算数科においても同様です。基礎的基本的な理解を促す上でも、問題の意味を正確に捉えたり、数式の意味を言語化しそれを他者に説明したりする学習活動を増やしていくことが大切だと考えます。

今後とも、これまでに身に付けた基礎力を生かし、実際の生活で活用することができる「確かな学力」を身に付けさせることができるよう教職員一同精進いたします。

4 生活状況調査の結果と学力調査の関連について

学力調査と並行して質問紙による生活状況調査も実施しています。最後に、質問紙調査で明らかになった本校児童の際だった特長についてお知らせします。調査の結果、本校児童は、朝食をしっかりと食べる等、基本的な生活習慣が身につけていることがわかります。学習の面では、国語・算数とも、「授業の内容がよくわかる」と回答した児童が80%を越えることから、学習に困難さを感じている児童は少ないと思われます。その一方で、「自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表している」や「話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりしている」と回答した児童は、共に、全国と比べ5ポイント程度低いという結果が出ています。

今後は、これまで以上に日々の授業における言語活動の充実を図るとともに、新学習指導要領で実現が求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に力をいれていきたいと考えています。

平成29年度学習定着度調査結果（3・4年生）をお知らせします

1 結果概要

調査対象は、4年生（国語科と算数科）及び3年生（算数科のみ）です。4年生は、国語科、算数科ともに、福岡市平均と比べ「同程度である」、3年生の算数科では、「同程度である」という結果が出ました。

2 正答状況からみた今後の課題

4年生の国語では、話す・聞く能力、書く能力、読む能力、言語についての知識理解のそれぞれで、福岡市の平均と同程度の結果となりました。大問別に見ると、説明文の読みや漢字・国語辞典の使い方が平均を上回っているのに対し、物語の読みや話すことが弱いと言えそうです。また、4年生の算数については、数量や図形についての技能が平均以上であったのに対し、数学的な考え方に弱みが見られます。

3年生は、数学的な考え方と計算等の技能については、平均を上回りましたが、知識・理解については、平均に届きませんでした。今後は、子どもたちがつまづいた問題を復習することを通して十分なレベルまで高めるとともに、国語科、算数科ともに考えを書いたり、それぞれの考えを交流し合ったりする学習を充実させたいと考えています。